

平成 29 年度 狛江市市民活動支援センター第 2 回運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 7 月 12 日 (水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委 員 伊藤聡子 伊藤輝芳 内海貴美 大矢美枝子 荻野修 高橋英史
高橋宗孝 田部井則人 西岡邦子 松村正俊 松村雪子 三島瑞子
渡辺敏政
事務局 小楠寿和 志田五十鈴 白石珠美 高橋善治 中里紀男 日比野浩
(50 音順 敬称略)
- 4 欠席者 委 員 上田英司 羽田野英博
- 5 傍聴者 2 名
- 6 議 題 1 報告事項
①指定管理業務の報告について
②専門部会からの報告について
- 2 協議事項
運営委員会の課題に対する対応について～目標設定や評価に伴う情報
のあり方～
- 3 その他

7 会議概要

1. 開会

(1) 新委員の紹介

4 月の人事異動により、狛江市商工会からは渡辺敏政委員に交代、第 1 回の運営委員会で承認された欠員補充で東京ボランティア・市民活動センターの佐藤新哉委員が運営委員となり、あいさつがあった。

(2) 委員長あいさつ

委員長からあいさつがされた。

2. 議題

(1) 報告事項

①指定管理業務の報告について

—指定管理における事業実績報告の添付資料に基づき事務局より説明。—

—質疑—

(委員) ネットワークの報告について、食事提供関係の団体は「子ども食堂」の他にどんな団体が参加したか。

(事務局) 「子ども食堂」の他に、子どもや多世代を対象とした居場所づくりを行っている団体が参加した。

(委員長) 1年が経過し、少しずつではあるが支援センターの担ってきたことが団体に理解されながら、活用されてきていることが見えてきたのではないかと思います。

これからも、ひとつでも多くの団体に利用していただければ目標達成に近づくのではないかなと思う。

②専門部会からの報告

事務局より説明

◇体験学習部会

- ・月1回+臨時の会議を行った。市民6名、事務局2名の計8名で活動している。
- ・誰もが暮らしやすいまちづくりということで、体験型の市民学習の検討を進めている。今後の予定は、以下のとおり。
- ・市民の協力を得る必要があるため、市民に体験学習部会を知ってもらう。
- ・市内小学校6校にどんな体験学習を行っているか調査を行う。
- ・学校の教員や地域の方にも知ってもらうために、イベントの開催を進めている。小学4年生から6年生を対象にした「はじめてのプログラミング」(8月19日実施予定)で、チラシ配布の予定。
- ・イベントは、プログラミングに興味のある方を体験ボランティアで募っている。
- ・ただプログラミングをするだけでなく、共生社会ということも考えてもらえるように、作ったプログラミングを使い、新しいお友達を作ってみようということで開催。

◇情報部会

- ・現在市民10名、事務局2名で活動している。
- ・情報というと広いが、ホームページについてメインに活動。
- ・ホームページをどう使ってもらうかということで、イベント開催を予定している。
- ・あと1か月位だが、音楽や作業所の餃子の販売なども内容として検討している。
- ・登録団体中、自力でホームページを更新できるのは5団体。
- ・全体からすると少ないが、徐々に増えている。

- ・情報ボランティアも募集しており、パソコン初心者の方に来ていただき、団体のイベントチラシをホームページに掲載するためにテキスト化するなどをしてもらっている。現在3人の方が参加。
- ・広報誌「こまえがお」のテキスト化なども行っている。
- ・イラストなどのテキスト化は悩むところだが、なんとか分かりやすく伝えられるように、工夫したい。

(委員) 入力ボランティアの作業は、どこで行っているのか。

(事務局) ボランティアの方には支援センターで行ってもらっている。支援センターに来ることを目標にして活動している方もいる。

(委員) スマートフォンで見える場合とパソコンで見える場合に違いはあるか。

(事務局) 多少レイアウトは変わるが、基本的に同じ情報を見ることはできる。

◇広報部会

- ・第2号について、昨年よりメンバーが増えて7名で、4月から活動している。
- ・会議で紙面構成などを考えて、ページやコーナーごとにそれぞれのメンバーが取材に行き、執筆を行った。
- ・7月15日の発行予定で、新聞折込み21,100部、市内公共施設や情報誌「えくぼ」の設置店においていただく予定。
特集は「ほっこりさん」個人の活動に焦点を当てたもの、団体紹介は、「猫^{こま}おくらぶ」、1面は支援センターの紹介で、フリースペースのイベント利用をした団体のインタビューとなっている。
- ・次の第3号に向けて、今月から始動する予定。

(委員) 学校だよりなど、市の発行物でも校正が十分されていないこともあるが、どのようにしているか。

(事務局) 部会、事務局等で3回の校正を設けている

(委員長) その他、質問等はあるか。

(事務局) 調布 FM から広報誌「こまえがお」を取り上げたいという申し入れがあり、7月4日に放送があった。

(委員) 事前に分かれば、教えてもらえるとよい。

(事務局) そのようにしたい。

(2) 協議事項

運営委員会の課題に対する対応について～目標設定や評価に伴う情報のあり方～

(委員長) 前回の運営委員会で、勉強会又は小委員会を立ち上げるにしても、具体的な事項を定めることが必要ではないかとのことで、そのために正副委員長と提案していただいた委員を含めて話し合いを2回行った。その経過報告と概略について事務局から説明をお願いしたい。

事務局より経過と評価サンプルについて説明

提案委員より詳細説明

(委員) 事業の評価といっても、何が事業の評価になるのかわかりにくい。支援センターは狛江市の条例でつくられたものでありその目的があるので、それに沿ってサンプルの作成をした。

相談に関すること、団体の連携、交流促進、情報収集と発信、設備、支援センターの設置目標を達成するための必要な事項などの事業がある。これらのセンターの計画を、市の条例に基づいた設置目標ごとにカテゴリー分けすると、より目標に合った運営ができるかと思う。実施項目を割り当てて、実際の進み具合をみてみたい。

たとえば、地域の課題を市民・公益の活動団体の支援をする拠点という設置目標がある。支援をしているかしてないか、それを見る資料があれば、上手くいっているかがわかる。そういうものがあつたらいい。

具体的にいうと、新規の活動を受付けたか、市と協働したい相談があつたか、それが進んでいるか。また、上手くいっているものばかりではない、止まっている物、だめになってしまったものの件数がわかれば、その理由はなんだろう？何か私たちが手伝えないか？という話ができる。また、できなかったものについても、何が障害でできなかったのか、それを取り除くことができるかどうかを検討できれば、社協会長への提言などにつながるのではないかと。

計画を作って、前回の課題を反映しているかどうか。効果測定については非常に難しいが、アンケートで数やコメントをとるなどの方法が考えられる。

実は、一番の心配は、これだけのことを今の職員でできるかどうか。一つ一つは正しくても、全

体で見た時に、現在の体制ですべてが出来るのかどうか。そういった話ができるようにしたい。

この表を使うということではなく、皆さんのその知りたい項目が何かということ、皆さんに伺いたいのが主旨となる。

(委員長) 何をはっきりさせたいかということのイメージがかなり持ちやすくなったと思う。委員からも話があった職員の体制ですが、仕事をこうしたかたちにまとめていくことが、どの程度効果的かはこれからの検討になる。話し合いはこれまで2回行ったが、参加したい方はぜひ手を上げていただきたい。

(委員) こうしてしてみると分かりやすくなるし意見も出やすくなると思うが、我々委員それぞれが、何を代表してきているか。自分の団体にどう伝えていったらいいのか、それぞれの団体にしてほしいことを伝えてもらえると、数回の委員会でもやりがいがあると思う。職員の方に臨むこともあるが、ここの委員自身に臨むものもあるかなと思う。

(委員長) こまえくぼのことも含めて、それぞれの所属団体にうまく返せるようになると良い。

(委員) 表については、もう少し協議してこれだったらできるというのを、職員の了解をとってやっていければいいのではないかなと思う。

(委員) 予定通りいっているかどうか、委員同士が話をするための共通の尺度がないと、良いのか悪いのかが判断できない。

(委員) 数値化する手間が多いのではないか。沢山の相談を受けて、これはうまくいった、これはいまこんな具合など、やっていくのは多くの負担があるのではないか。

(委員) 職員が計画の進行状況も管理できるツールのようなもの。報告用ということではなく、それがたまたま報告にも活かせるかたちになればよいと思う。

(委員長) 自己評価としては必要なものであると思う。事務局とも検討して、こういったものにしていけたらいいかということ、考えたい。

(委員) サンプルとして作られたのは、目標に対して事業があつて、その進捗などを網羅する形で、こまえくぼの全事業を同じレベルで評価すると、こういったものになると思う。ただ、すべてを網羅するのは非常に大変であるので、優劣をつけるというのも必要ではないか。

支援センターの利用者アンケート結果からの絞り込みと、日々の業務から職員の日線からの絞り込みをすればよいと思う。

毎年実施する市民アンケートがあり、今回のアンケートでは、臨時的に「こまえくぼ1234を利用したか」という設問を入れた。回答結果は以下のとおりとなる。

回答結果の①～③はこまえくぼを知っている人、④はこまえくぼを知らない人ということになる。取り組みも進めて徐々に知られていると思うが、まずは、知らない人に知ってもらおうということで、このあたりも参考にしてもらおうとよいと思う。

○市民アンケート（参考）

対象：満18歳以上、無作為で2,500人、

回答：759通、

回収率：30.4%。

調査期間：4月10日～5月5日

設問 「あなたは市民活動支援センター（こまえくぼ1234）を利用したことがありますか」

回答 ①利用したことがある又は利用する予定がある…1.7%

②今後利用してみたい…17.5%

③利用したいとは思わない…8.3%

④知らない…70.1%

（委員）こまえくぼ以外の施設で、知っているかどうかの設問はあるか。

（委員）新しい施設がないので、施設の認知度に関する設問は今回のアンケートでは他にはない。

（委員長）この市民アンケートは、どういう目的でおこなうのか。

（委員）市の基本計画に対して、策定時の数値に対して計画を進行するなかで、成果が出ているかどうか推移をみるために行っている。

（委員長）こまえくぼの施設の説明は入っているか。

（委員）簡単だが、設問の下に入れている。

（副委員長）毎年行うのか。こまえくぼが知られているということが、今後もわかると良い。

（委員）後期基本計画が平成31年度までであるので、出来る限り経年的にみられるようにしたいと思う。

（委員）759名で、だいたいつかめるものなのか。少ないが正しく見られるのか。

(委員) 統計上はでる。ただ、そうはいつでもそれしかないともいえる。

(委員) 市内で長く活動している団体があっても、その団体のことを知らない人も多い。知ってもらうことは難しく、地道なものであるとも思う。

(委員長) この評価に関する検討は何度か集まりをもっているが、皆さんにもぜひご参加いただきご意見を反映させていきたいので、よろしくお願いします。

(委員) こちらのセンターを知っていただく事は、どちらにしても大事な事。その際にこまかくばが、市民活動を支援していることはもちろんだが、“ボランティア活動”ということもキーワードとしてアピールしてもよいのではないか。ボランティアで地域にかかわっている市民の方がたくさんいることは事実で、ボランティアなら興味ある人もいると思う。自分のやっていることはボランティアだけど、市民活動なのかもという流れができるより広がりが出てくると思う。新しくできたセンターですので、広めていくにあたってはそのようなことも意図的にあってもいいのではないか。関係ないと思う人を増やすよりは、自分もちょっと関係あるなと思う人を増やしていく方がいい。

(委員) 活動者も高齢化している。元気な高齢者も多い。ここでも定年後の方の参加を促す事業もやってくれているが、高齢者ばかり頑張っている。若い人もボランティアに関われるといい。

(委員長) 自分たちのまちは自分たちでつくるということ、どう醸成するかということでもあります。

3. その他

事務局からお願い

- ・平成 30 年度計画策定にあたって、委員の皆さんにもご協力いただきたいので、お手数ですが、28 年度事業報告書と 29 年度事業計画書を再度確認してほしい。
- ・9 月 8 日（金）、区市町村市民活動センター運営委員・センター長会議が東京ボランティア・市民活動センターであるが、都合のつく方は一緒にご参加いただきたい。

次回の運営委員会の日程は、9 月 4 日（月）18 時 30 分開始。

以上で、本日の運営委員会は終了。